

活 動	内 容	成 果
事例検討会	対応に苦慮する事例等を共有し、その対応と見えてくる地域課題について協議し、課題の解決に向けた取組をする。提供された事例について継続して討議し、支援に役立てていく。 1 医療に繋がらず様々な課題を抱える児童のケース 2 様々なリスクを抱えながらも、一人暮らしを続ける被後見人のケース 3 難病を持つ方で、ケア方法の統一や病状進行の速さへの対応が難しいケース	1 同じ悩みを持つ親同士が集う場所や、父親同士が集う場所が必要。 2 ストレngthsに着目した支援が重要。地域連携の在り方や連携する際の個人情報の取り扱い、後見人との連携の在り方について学んだ。 3 写真や動画、アプリを活用した情報共有が有効。IT機器を活用し本人の興味関心のあることを支援に取り入れていくとよい。緊急時の支援体制を想定した計画作りも選択肢の一つ。IT機器の扱いが得意なヘルパーがいるとよい。
意見交換会	何でも気軽に話せる機会を通じて、困りごとや有益な情報、地域課題を共有し、実務に活かしていく。 1 業務の進め方 2 リフレッシュの仕方 3 事務作業について 4 事業所の探し方 5 相談業務をされていて嬉しかったこと&ちょっと笑える失敗談	相談員同士で悩み等を共有し、支え合う関係を構築できた。その他、以下のような課題等が見付かった。 ・インテーク時の対応に不安を感じている相談員がいる。 ・通院同行、見学同行など、どこまで支援すべきか区切りがしにくいところが課題。 ・同行援護、行動援護、重度訪問介護、車椅子対応の事業所、通院等乗降介助ができる事業所がない。 ・不登校の児童の対応が難しい。居場所作りが必要。 ・児童それぞれに適切な事業所を見付け、そこで支援をしてもらう必要があるため、それを探し繋げるのは大変。
学習会(基幹相談支援センター主催)	実務に活かせるテーマを選び、学習する(知能検査・発達検査の活かし方、障がい者虐待防止、保健所・保健師の役割と仕事)。	・知能検査、発達検査の特徴と検査結果の活かし方について学び、支援を行う際に必要な知識が深まった。 ・障がい者虐待について、相談員が虐待を発見しやすい立場であることを改めて認識し、日頃から「虐待かもしれない」という意識を持つことの重要性を認識した。 ・保健所、保健師の役割を理解し、連携を深めることができた。
子ども部会との交流	放課後等デイサービス事業所、児童発達支援事業所、子どもの関係機関と情報交換・意見交換をして、お互いの支援内容への理解を深める。	・子ども部会の事例検討の結果の報告から、性的な行動に課題のある児童についての対応方法等について共有することができた。 ・保育所等訪問支援の支援方法等について、子ども部会と再確認し、有効な支援の入り方について理解を深めることができた。 ・ジェノグラム、診断名を正確に記すことの重要性を再確認した。
新座市の社会資源についての勉強会	相談支援従事者初任者研修の受講者と一緒に、新座市の特徴や相談支援体制、居宅系・通所系サービスの現状や課題について学習した。	・行動援護について、市内事業所は1ヶ所だけで、支給決定者がかなり少ない。 ・居宅系サービスの人材の不足が課題。 ・児童のサービスは、市内の利用者だけでなく他市の利用者も多いため、市内在住で市内の事業所を利用したいのに、定員オーバーになってしまい通えないというケースがある。 ・医療的ケア児の受け入れ可能な事業所が少ない。 ・強度行動障がいがある児、者に対して受入体制が整っていない。事業所ごとに質の差がある。
まとめと次年度へ向けて	・相談員のスキルアップが必要でそのニーズも高い→基幹相談支援センターと協力・連携して人材育成に取り組む ・地域課題が広範にわたっている→協議会の他の部会へ積極的に参加し、ネットワークを構築しながら課題解決に取り組む ・意見交換会や事例検討会から仕事上のヒントが得られる→2つの会の質を向上させ、モチベーション・スキルアップを目指す	